

平成 30 年 6 月 4 日現在

機関番号：13201

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K04118

研究課題名(和文) 親密な関係における暴力の発生・維持過程：暴力の深刻度を考慮した包括的検討

研究課題名(英文) A Comprehensive Study Regarding the Generation and Increasing Severity of Intimate Partner Violence

研究代表者

竹澤 みどり (Takezawa, Midori)

富山大学・保健管理センター・講師

研究者番号：90400655

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、親密な関係における暴力(Intimate Partner Violence: IPV)の維持・深刻化過程を明らかにすることが目的であった。研究1では、身体的暴力、心理的暴力、性的暴力の3つの尺度から成る、様々な深刻度のIPV行為の被害経験を包括的に測定しうる尺度を作成した。研究2では、維持・深刻化過程を明らかにするために縦断調査を実施した。その結果、交際関係が継続している場合は行われていたIPV行為が維持されやすいこと、心理的暴力の中でも特に人権を侵害するような言動や、相手の言動を監視するような行為は他のIPV行為を引き起こしやすいことが明らかとなった。

研究成果の概要(英文)：The present study investigated the generation and increasing severity of intimate partner violence (IPV). For this purpose, the Comprehensive Scale of IPV Victimization was constructed, which included three subscales (i.e., physical violence, psychological violence, and sexual violence). Each subscale consisted of some items that varied from not severe to severe IPV behaviors. A longitudinal study was also conducted to examine the generation and increasing severity of IPV. The findings indicated that the same type of IPV behavior was relatively easy to maintain. Moreover, psychological violence, especially the behaviors of entrenching on the partner's human rights and monitoring the partner's activities, promoted the subsequent occurrence of many other types of IPV.

研究分野：臨床心理学

キーワード：親密な関係における暴力 IPV 発生・維持過程 深刻化過程

### 1. 研究開始当初の背景

「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律」にみられるように、親密な関係における暴力 (Intimate partner violence: IPV) が社会問題化され、対応が急務となっている。暴力の受け手に及ぼす影響は、身体への物理的な被害だけではなく、うつ病や PTSD といった精神疾患を呈するなど精神面への影響も大きい (加茂・氏家・大塚, 2004)。従来、特に配偶者間の暴力に焦点が当てられることが多かったが、IPV は配偶者間のみではなく、婚姻関係のない恋愛関係においても見られる。内閣府 (2012) の調査によると、10 歳代から 20 歳代の頃に交際相手のいた人のうち、女性の 13.7%、男性の 5.8% が交際相手から「身体的暴行」、「心理的攻撃」、「性的強要」のいずれかをされた経験があることが明らかとなっている。

現代では恋愛結婚が 88% を占め (国立社会保障・人口問題研究所, 2010)、恋愛関係は将来の婚姻関係の学習の場となることが指摘されており (赤澤, 2008)、恋愛関係と婚姻関係には連続性がみられる。同様に、婚約期間の身体的暴力は結婚後の身体的暴力の発生を高めることなどが指摘されており (Lorber & O'Leary, 2012)、カップル間の暴力に関しても連続性がみられる。しかし、これまで横断研究、縦断研究も含めて暴力が連続・継続していく過程を検討した研究は未だ少ないのが現状である (Frias & Angel, 2007)。これまで、IPV のリスク要因として飲酒、幼少期の虐待経験、暴力に対する態度などの個人特性について多く研究されてきている。しかし、それらが全ての人において暴力につながり、暴力が維持されるわけではない。IPV を十分に理解し、より効果的な対策を講じるためには、個々の個人特性について検討するだけでは不十分であり、IPV の発生や維持過程についても明らかにすることが重要であると指摘されている (Shortt, Capaldi, Kim, Kerr, Owen & Feingold, 2012; Schumacher & Lenard, 2005)。暴力がどのように発生し、維持されるのか (またはされないのか) その過程を明らかにすることによって、より初期の段階での介入の可能性が高まり、将来の起こりうる暴力の予防にも貢献しうると考えられる。

先行研究では、男性が交際相手の浮気を疑うことが束縛につながり、さらには直接的な暴力 (身体的暴力) に発展すること (Kaighobadi, Stratt, Shackelford & Popp, 2008)、心理的・言葉による暴力が後の身体的暴力を予測すること (Testa, Hoffman & Leonard, 2011; Shumacher & Leonard, 2005; Murphy & O'Leary, 1989 など) などが指摘されている。つまり、暴力の種類によって初発段階に現れやすいもの、または明らかな暴力とは言えないがその前段階で現れる明らかな暴力につながる行為が存在すると考えられる。多くの研究では、暴力の種類

を「身体的暴力」「精神的暴力」「性的暴力」などと区別して検討しているが、内容のみではなくその深刻度を考慮した、暴力と言えるかどうか判別が難しい行為から、より明らかなで深刻な暴力までを含めた包括的な検討を行った研究は少なく、様々な深刻度を網羅した IPV 尺度も開発されていないのが現状である。

### 2. 研究の目的

本研究では、IPV の発生や維持・深刻化過程を明らかにすることを目的とする。その際に、これまであまり注目されてこなかったより軽度な暴力や明らかな暴力行為に至る以前の行為も含めた様々な深刻度の行為を包括的に検討し、その過程をより詳細に検討する。加えて、発生や維持・深刻化に関連する対人関係性や対処行動といった要因との関連も検討する。

#### 研究 1

様々な深刻度の行為を包括的に測定しうる尺度を作成することを目的とする

#### 研究 2

IPV の発生や維持・深刻化過程に関する要因を縦断的に検討することを目的とする

### 3. 研究の方法

#### 研究 1

先行研究を基に身体的暴力、心理的暴力、性的暴力被害経験を測定するための予備尺度項目をそれぞれ作成し、臨床心理学を専門とする分担者が内容的妥当性の確認を行い、最終的な予備尺度をそれぞれ作成した。作成した予備尺度を用いて、尺度の因子的妥当性や信頼性の確認、およびデモグラフィック要因との関連を検討するために WEB 調査を実施した。現在交際相手のいる 18~29 歳の未婚の男女 1131 名から回答が得られ、そのうち回答に不備のない 690 名 (男性 312 名・女性 378 名) を分析対象とした (ダミー項目の指示と異なる回答を行った対象者は応答態度に問題があると判断し分析から除外した)。平均年齢=24.97 歳 (SD=3.01) であった。具体的な調査内容は、身体的暴力、心理的暴力、性的暴力から成る包括的 IPV 尺度であった。

調査時期は 2015 年 12 月であった。

#### 研究 2

IPV の発生や維持・深刻化過程を明らかにするために縦断調査を行った。第 1 回調査の 6 か月後に第 2 回調査 (どちらも WEB 調査) を実施した。調査対象者は第 1 回目の調査時点で交際相手のいる 18~29 歳の男女 (1 回目: 男性 546 名・女性 2123 名・その他 4 名, 2 回目: 男性 164 名・女性 770 名・その他 3 名) であった。調査内容は、身体的暴力 (重篤な身体的暴力、中程度の身体的暴力、軽度の身体的暴力)、心理的暴力 (見下し怒りをぶつける、人権侵害・監視行為、束縛、自傷行為による脅迫)、性的暴力 (性的辱め行為、性的無理強い行為) を含む IPV 被害経験、葛

藤解決方略（統合相互妥協，何もしない・できない，強制，回避，自己譲歩），勢力関係（賞影響力，罰影響力，正当影響力，専門影響力，参照影響力，魅力影響力）であった。調査時期は，第1回目が2017年4月，第2回目が2017年10月であった。

#### 4. 研究成果

##### 研究1

身体的暴力，心理的暴力，性的暴力被害経験のそれぞれの尺度について探索的因子分析を行った結果，身体的暴力被害経験では「重篤な身体的暴力」(13項目)，「軽～中程度の身体的暴力」(13項目)の2因子 (Table1)，心理的暴力被害経験では「人権侵害・監視行為」(11項目)，「見下し・怒りをぶつける行為」(15項目)，「束縛」(6項目)，「自傷行為による脅迫」(4項目)の4因子 (Table2)，性的暴力被害経験では「性的辱め行為」(13項目)，「性的無理強い行為」(4項目)の2因子 (Table3) がそれぞれ抽出された。信頼性係数  $\alpha$  は.816-.954であり，高い信頼性が確認された。性差について検討した結果，「性的無理強い行為」においてのみ女性のほうが男性よりも被害経験が多く ( $t(674.30)=3.76, p=.000, d=.28$ )，それ以外の行為については被害経験に性差は見られなかった。各行為間の相関係数を算出したところ，すべての行為間で.34-.91と中程度から強い相関がみられたことから，IPV行為はある1つの行為のみが生起するというより，複数の行為が並行して行われている場合が多いことが示唆された。

Table1 身体的暴力被害経験尺度の因子分析結果

項目			
<b>重篤な身体的暴力 ( <math>\alpha = .954</math> )</b>			
やけどをさせられた	1.06	-.24	
やけどをさせてやると脅された	1.00	-.21	
酒や薬物を無理やり飲まされた	.92	-.17	
家に帰れないような場所に置き去りにされた	.87	-.01	
ナイフなどの凶器を使って脅された	.85	-.08	
私の家族や友人を傷つけると脅された	.85	-.03	
病院に行くことを妨害された	.83	.05	
言うことをきかないと，暴力をふるうと脅された	.73	.19	
首をしめられた	.64	.24	
服を引き裂かれた	.57	.19	
「殺してやる」と脅された	.56	.31	
私が大切にしている物を，怒りにまかせてわざと壊した	.52	.32	
私が一緒に車に乗っているとき，わざと危険な運転をされた	.50	.12	
<b>軽～中程度の身体的暴力 ( <math>\alpha = .894</math> )</b>			
相手がイライラしているとき，私の前で物を蹴った	-.03	.71	
からかうような調子で，軽く蹴られた	-.06	.70	
相手がイライラしているとき，私の前で物を投げた	.01	.70	
からかうような調子で，軽くたたかれた	-.27	.70	
からかうような調子で，軽く体を押された	-.15	.64	
からかうような調子で，軽く物をぶつけられた	.07	.63	
相手がイライラしているとき，私の前でわざと大きな物音をたてた	.07	.63	
腕や足を強くつかまれた	.13	.62	
からかうような調子で，軽くつねられた	-.03	.62	
強くつねられた	.18	.58	
「殴ってやる」，「殴られたいのか」などと脅された	.31	.56	
顔を平手で強く打たれたり殴られたりした	.28	.55	
体を強く押された	.24	.53	

Table2 心理的暴力被害経験尺度の因子分析結果

項目				
<b>人権侵害・監視行為 ( <math>\alpha = .912</math> )</b>				
私を辱めるような写真を，勝手にネット上にアップされた	1.03	-.14	-.13	.07
私が嫌がるような嘘の情報を，ネット上に書き込まれた	.81	-.09	-.10	.10
GPSで私の行動を監視された	.77	-.06	.13	-.12
私を部屋に閉じ込めて，外出を許さなかった	.72	.00	-.10	.21
スマホ・携帯の履歴やアドレスを勝手に消された	.72	-.14	.24	-.02
私のプライベートについて，勝手にネット上に書き込まれた	.70	.10	-.09	.00
ネット上で，私を誹謗中傷するような書き込みをされた	.66	.30	-.09	-.09
相手の望むとおりにならなかったら，浮気してやると脅された	.56	.05	.07	.09
私を傷つけようとして，私の前でわざと他の人をほめた	.49	.33	.01	-.12
手帳や日記を無断で見られた	.45	.10	.12	.08
スマホ・携帯などの連絡手段をとりあげられた	.41	-.05	.29	.15
<b>見下し・怒りをぶつける行為 ( <math>\alpha = .914</math> )</b>				
「ブサイク，デブ」などと，外見をののしられた	-.04	.78	-.28	-.01
体型や顔など，身体的な欠点をからかわれた	-.01	.71	-.23	.08
一緒にいるとき，私を無視するような態度をとられた	.04	.71	.06	-.09
「頭が悪い」など，バカにするようなことを言われた	-.17	.70	.07	.10
見下すような，バカにするような呼び方をされた	.06	.68	-.01	.06
意見が合わないとき，すぐに泣いたり怒ったりして話し合おうとしなかった	-.01	.60	.12	.03
私がしようとしていることに，「どうせダメだ，できない」などと反対された	.04	.60	-.07	.18
「うざい！」や「しつこい！」などと，強い口調で拒絶された	-.05	.59	.19	.06
私に隠れて，他の人と浮気していた	.34	.54	-.07	-.22
私が連絡をしても無視された	-.05	.53	.09	-.04
他の人にも恋愛感情があるような態度をとられた	.16	.51	.09	-.10
私と意見が合わないとき，相手は露骨に不機嫌になった	-.13	.49	.38	-.01
私に関係のないことで，しつこく八つ当たりをされた	.10	.48	.21	.01
大きな声で怒鳴られた	-.09	.48	.25	.07
私が悪くなくても，こちらから謝るまで無視された	.04	.43	.25	.05
<b>束縛 ( <math>\alpha = .834</math> )</b>				
すぐにメール・LINEに返事をしなかったら，不機嫌になった	-.03	-.16	.93	.00
電話やメール・LINEなどですぐに返事をしなかったとき，怒られた	-.05	-.14	.86	.06
どこに誰と行くかを知らせないで行動したら，怒られた	.09	.07	.63	.07
私が他の異性とかがわると不機嫌になった	-.10	.09	.62	-.05
私のスケジュールを細かく確認された	.13	.05	.50	-.01
スマホ・携帯を勝手に見られた	.21	.11	.40	-.10
<b>自傷行為による脅迫 ( <math>\alpha = .912</math> )</b>				
私を心配させようとして，相手はリストカットなどの自傷行為をほめた	-.05	.12	-.05	.94
「別れるなら自殺する」などと脅された	.11	.02	-.03	.80
私の気をひくために，相手は自殺をほめた	.06	-.10	.09	.77
相手の望む通りにしなかったら，相手がリストカットなどの自傷行為をした	.09	.03	.01	.70
<b>Table3 性的暴力被害経験尺度の因子分析結果</b>				
項目				
<b>性的辱め行為 ( <math>\alpha = .919</math> )</b>				
第三者との性行為を強要された	1.00	-.12		
私の性行為の動画を，勝手にインターネット上にアップされた	.98	-.08		
私の性的な画像を，勝手にインターネット上にアップされた	.97	-.08		
ポルノビデオや雑誌を見るように無理強いされた	.84	-.05		
私の性的な画像を，勝手に他人に送られた	.84	-.03		
無理に相手の性器を見せられた	.60	.16		
性行為の際，私を辱めるような写真を無理やり撮影された	.58	.09		
性行為を拒否したら，別れをほめた	.56	.13		
嫌がっているのに，ポルノメディアのような性行為を要求された	.55	.20		
相手の体にさわろうとしたら，侮辱するような態度をとられた	.54	.09		
私には性的な魅力が欠けていると侮辱された	.53	.14		
相手にキスしようとしたら，「興味がない」などと拒否された	.52	-.03		
「みんなしている」などと言って，性行為を強要されそうになった	.50	.34		
<b>性的無理強い行為 ( <math>\alpha = .816</math> )</b>				
嫌がっているのに，体を触られた	-.09	.85		
嫌がっているのに，体を触られそうになった	.01	.82		
嫌がっているのに，キスされそうになった	.04	.62		
私の気が進まないのに，性行為を強要された	.10	.59		

## 研究2

Time1 における IPV 被害経験とカップル関係における葛藤解決方略、勢力関係が Time2 における IPV 被害にどう影響を与えるかを検討するために、Time2 時点で関係が継続されていた人(725名)を対象として、調査対象者の性別、交際期間、Time1 での各 IPV 被害、葛藤解決方略、勢力関係を説明変数、Time2 での各 IPV 被害を従属変数として、重回帰分析(ステップワイズ法)を行った。その結果、「束縛」については、多重共線性が生起している可能性が考えられたため分析から除外した。再分析の結果(Table4)、説明変数である Time1 と同じ種類の IPV 被害が Time2 でのその被害を高めていたことから、関係が継続している場合は IPV 被害が維持されやすいことが明らかとなった。また、Time1 での「人権侵害・監視行為」は、Time2 でのすべての IPV 被害を高めていたことから、心理的暴力の中でも特に人権を侵害するような言動をされたり、自身の言動を監視されたりするような被害は他の IPV 被害を引き起こしやすいことが明らかとなった。葛藤解決方略については、「強制」のみが Time2 での心理的暴力の一つ「見下し怒りをぶつける」と性的暴力の一つ「性的無理強い」をわずかではあるが高めていた。このことから、交際相手との間で生じた葛藤に対して、自身の要求を押し通そうとするような解決方略を用いることが、特に相手から見下されたり、怒りをぶつけられるような行為や性的な行為や接触を無理強いするような行為を引き起こしやすい可能性が示唆された。勢力関係については、どの影響力についても有意な影響は見られなかった。

Table4 Time2における各IPV被害におけるステップワイズ法による重回帰分析結果

	Time2						
	見下し怒りをぶつける	人権侵害監視	自傷行為による脅迫	重篤な身体的暴力	中程度の身体的暴力	軽度の身体的暴力	性的専め
性別(男性=1,女性=2)	-	-	-	-	-	-0.09**	-
交際期間(月)	-	-	-	-	-	-	-
T1見下し怒りをぶつける(心)	.55**	-	-	-	-	.08*	.12**
T1人権侵害監視(心)	.10**	.80**	.43**	.43**	.16**	.13**	.31**
T1束縛(心)	-	-	-	-	-	-	-
T1自傷行為による脅迫(心)	.08*	-	.24**	-	.09**	-	-
T1重篤な身体的暴力	-	-	.17**	.27**	-	-	-
T1中程度の身体的暴力	-	-	-	-	.54**	-	-
T1軽度の身体的暴力	.09**	.06*	-	-	.08**	.55**	-
T1性的専め	-	-	-	.10*	-	-	.50**
T1性的無理強い	.07*	-	-	-	-	-	.54**
T1賞影響力	-	-	-	-	-	-	-
T1罰影響力	-	-	-	-	-	-	-
T1正当影響力	-	-	-	-	-	-	-
T1専門影響力	-	-	-	-	-	-	-
T1参照影響力	-	-	-	-	-	-	-
T1魅力影響力	-	-	-	-	-	-	-
T1統合相互妥協(対処)	-	-	-	-	-	-	-
T1何もしないできない(対処)	-	-	-	-	-	-	-
T1強制	.05*	-	-	-	-	-	.06*
T1回避	-	-	-	-	-	-	-
T1自己譲歩	-	-	-	-	-	-	-
R2	.56	.68	.57	.58	.55	.44	.59
F	150.23**	766.48**	238.52**	336.24**	219.78**	142.04**	517.70**

p<.05, \*\*p<.01

さらに、Time1 で被害経験があった人を対象に交際関係が継続されている人と関係が終結した(別れた)人で Time2 時点での精神的健康(自尊心、K6)に違いがあるかを検討した。交際関係継続/終結を独立変数、精神的健康を従属変数とした t 検定の結果、両者に有意な差は見られなかった(Table5)。

Table5 交際関係継続の有無による精神的健康の各得点の平均値(SD)および t 検定結果

		N	平均値	標準偏差	t 値	
T2の自尊心	交際継続	519	28.58	7.78	1.28	n.s.
	別れた	150	29.49	7.60		
T2のK6	交際継続	519	13.72	5.87	1.29	n.s.
	別れた	150	14.43	6.21		

## まとめ

本研究によって、様々な深刻度、行為の種類から成る IPV 尺度が作成され、複数の行為が並行して行われていることが示唆された。さらに、心理的暴力の中でも特に人権を侵害するような言動や、相手の言動を監視するような行為(「人権侵害・監視行為」)は他の様々な種類の IPV の発生をもたらすことが明らかとなった。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計2件)

松井めぐみ・竹澤みどり・宇井美代子・寺島 瞳・宮前淳子 2017 親密な交際相手からの心理的暴力被害経験と年齢層、職業、世帯年収との関連 学園の臨床研究,16 21-27.

宮前淳子・竹澤みどり・宇井美代子・寺島 瞳・松井めぐみ 2016 若年層を対象とした交際相手からの心理的暴力被害経験尺度の作成と性差の検討 地域環境保健福祉研究, 19, 9-19. 【査読有】

〔学会発表〕(計3件)

宮前淳子・竹澤みどり・宇井美代子・寺島 瞳・松井めぐみ 2017 包括的 IPV (Intimate partner violence) 尺度の作成(1)—心理的暴力被害経験尺度の作成と性差の検討—健康心理学会第30回大会, PB06.

松井めぐみ・寺島瞳・宇井美代子・竹澤みどり・宮前淳子 2017 包括的 IPV (Intimate partner violence) 尺度の作成(2)—身体的・性的暴力被害経験尺度の作成と性差の検討—健康心理学会第30回大会, PB07.

Megumi MATSUI, Junko MIYAMAE, Miyoko UI, Midori TAKEZAWA, Hitomi TERASHIMA 2016 Relation between Psychological Violence Victimization by Intimate Partner and Annual Household Income or Status and Occupations. 31st International Congress of Psychology, PS28A-03-253.

## 6. 研究組織

### (1)研究代表者

竹澤 みどり (TAKEZAWA, Midori)

富山大学・保健管理センター・講師

研究者番号: 90400655

(2)研究分担者

宇井 美代子 (UI, Miyoko)

玉川大学・文学部・准教授

研究者番号：80400654

寺島 瞳 (TERASHIMA, Hitomi)

和洋女子大学・人文社会学系・准教授

研究者番号：30455414

松井 めぐみ (MATSUI, Megumi)

岡山大学・全学教育・学生支援機構・准教授

研究者番号：60400652

宮前 淳子 (MIYAMAE, Junko)

香川大学・教育学部・准教授

研究者番号：10403768